

## 週日の説教（聖モニカの祝日）

金 大烈 神父 2009年8月27日（木）

### 《母の愛は、全てを越えた賜物です》

聖モニカについては、皆様よくご存知だと思います。今日は、聖モニカの祝日です。明日は、その息子である聖アウグスチヌスの祝日です。このように、一日違いで親子が祝日になっているのは、この二人だけです。

とにかく、聖モニカといえは、必ず聖アウグスチヌスも思い浮かびます。逆に、聖アウグスチヌスのことを考えて、母である聖モニカのことを考えないことはありません。そのくらい、この親子の関係には、いろいろな教会の教えがあります。

ものすごく熱心なカトリック信者であったモニカは、カトリック信者でない家へ嫁ぎます。そして3人の子どもを産みます。アフリカの話です。彼女は、夫とその両親に洗礼を受けさせることに成功します。しかし、2人の息子と1人の娘のうち、アウグスチヌスは、ローマへ留学をし、その頃ものすごく流行っていたマニ教という新興宗教に陥ってしまいます。

マニ教は、キリスト教では異端教といわれる宗教で、三世紀にマニという人がペルシアで起こしました。正確に言えば、彼が起こしたのではなく、彼の後、その弟子達が作った宗教です。その教えによると、仏陀、ゾロアスター、イエス・キリストが、それぞれ預言者としてこの世に来ましたが、結局、福音を伝えることができなくて失敗に終わり、マニはその次に派遣された救い主だと言っています。マニは、いろいろな民族や宗教を超えて、普遍的な宗教を作らなければならない、と説きました。若者達はその教えに夢中になり、ペルシアからローマまでその教えは広がります。その中に、アウグスチヌスもいたわけです。その頃アウグスチヌスは、熱心に勉強をしていた青年でしたから、学問として、宗教として、そのマニ教に夢中になりました。その噂を耳にしたモニカは、彼のために昼も夜もいつも祈りを捧げました。

聖モニカといえは、ともに浮かぶのは涙です。涙とともに捧げた祈りです。彼女の側にいた人々から、「彼女はいつも涙を流しながら息子のために祈りました。」という証言があったので、55歳の若さで亡くなった後、彼女は聖女となりました。もちろん、息子のアウグスチヌスが回心して、ローマで洗礼を受け、一生懸命に働いてカトリック教会では一つの柱として言われるくらいの偉大な存在となったためでもあります。

私たちは、そういうことを、本当にいつも意識しなければならないと思います。特に母である方々は、ここでは、母でない女性は二人だけです。ほとんどの方は誰かのお母さんです。では、子ども達のために涙を流しながら祈りを捧げたことがあるのでしょうか？ 振り返ってみてください。

しかし、全ての子ども達は、親にとって、特に母親にとっては、十字架です。では、その十字架の意味は何でしょうか？ 十字架は、重荷にもなるし、栄光にもなります。でも十字架の本当の目的は、栄光です。その栄光のために、負わされている十字架をどのくらい喜びながら力を出して背負ってきたか、考えてみましょう。

母性愛は、全てを越える力です。それは、賜物です。その賜物を生かすことを怠けたら、それは大変なことになると思います。母である皆様、子ども達のために祈ってください。子どもが、社会に出て成功するように願うのではなく、神様のみ旨に合う子どもになるように祈ってください。それが子ども達にあげる一番素晴らしい宝物だと思います。

人間的な成功は、虚しいものです。それより、心を失わないで、神様のことを、生きる意味を、はっきりわかるように、祈ってください。他の人と比べて劣っている子どもになる場合もありますが、それはそんなに大事なことはありません。その子どもが、神様の心をわかり、本当に自由に愛しな

がらこの世を生きられるように、お母さん達は絶え間なく祈らなければならないと思います。健康でなくてもいいのです。体が不自由でもいいのです。その子ども達が、本当に自分の生き方を大事にできるように祈れば、皆様も十分に役を果たせていると言えるでしょう。

最後に、今日の福音マタイ 24・42 - 51) ですが、イエス様は、「いつも目を覚ましていなさい。」とおっしゃいましたね。それは、どういう意味でしょうか。一言で言いますと、イエス様をとおして伝えられた掟をいつも守るように頑張りなさい、という意味だと思います。神様は、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、全てを尽くして神様を愛しなさい。そして自分のことも愛し、自分を愛することで、相手のことも愛することができるようになりなさい。」とおっしゃっているのではないかと思います。

「目を覚ましていなさい。」という言葉も、もう一度よく考えてみましょう。

ありがとうございました。